

# 地元の神主として祈り続けて23年



文化がみの〜れ制作委員会

しの ぎき ひろし  
**篠崎 弘** さん

みの〜れと共に生活するスタイル  
**Minole Life**  
**のすすめ** No.194

色とりどりの落ち葉や形の違ったどんぐりが、みの〜れの大きな木から舞い降りて、こどもたちにとってこの季節は宝の山ですね。小春日和の暖かな日には、ぜひみの〜れに遊びに行きましよう。今回は、20年前にみの〜れが誕生する際に発刊された「文化がみの〜れ物語」執筆者の一人、小美玉市寺崎にお住まいの篠崎弘さんを紹介します。

## 生きることは 変わることに

米・露地野菜・栗などを栽培する專業農家であり、みの〜れが建っている部室（へむろ）周辺を鎮守する貴船神社の宮司を26歳から務める篠崎さん。「自分で作物を育て収穫したときに喜びを感じます。晴れの日もあるし、

雨の日もある。常に神様に感謝しています」と話します。農業と宮司の仕事で毎日充実しているという篠崎さん。歳を重ねたら、神主は後継者に任せてゆくりりしたいそうですが「私の先代も90歳まで仕事をしていましたからね」と苦笑い。

たから。期待に応えなくなる性分なようで、文化がみの〜れ物語制作委員会に加わったのも、同級生から「ぜひやってほしい」と頼まれたからだそう。

篠崎さんは、文化がみの〜れ物語の第7章「まわりからみた文化センターへのそれぞれの想い」を執筆。「僕は反対派の一人です」から書き始めていたのですが、反対していたのは親で、その想いを代弁したくて書きました。同じく7章の『未来へのシンフォニー』に『年々歳々花相似たり、歳々年々人同じからず』という言葉を書きました。これは、花は毎年同じように咲くけれど、人はどんどん変わっていく、という意味です。生きることは変わることに。人は変われる可能性を持つているということです。みの〜れが誕生してからは、反対派の人もだんだん気持ちが変わっていったように感じ

ます。反対していた親も、孫の発表会でみの〜れに足を運んで喜んでいましたね。」

篠崎さん自身も、年に一度、神社総代会でみの〜れを利用していきます。誕生してから成長を続けるみの〜れを「早く予約しないとホールが取れないくらい人気がある」というのは本当に凄いことだと思えます。みの〜れが誕生する1年前に、地元（部室）の貴船神社の宮司になったというのも縁を感じます。神社総代会の日は、神社でお祓いをしてからみの〜れに来てくれるんですよ」と笑顔で話してくれました。

農家を継いだのは、幼い頃から家業を継ぐ期待を掛けられたから。神主になったのは、神主を務める親戚が後継者不在で困っており「やってみないか」と声を掛けられ

篠崎さん、20年以上地元の宮司としてまちを見守っていただきありがとうございます。健康的な成長をお祈りください。

（藤田佐知子）